

2018年12月期 本決算説明会



PPM(Public Personal Mobility)

ヤマハ発動機株式会社
2019年2月12日
(証券コード:7272)

本日ご説明する内容

2018年12月期 本決算

■ **概要説明** 代表取締役社長 **日高 祥博**

■ **事業別説明** 取締役 **大川 達実**

● 業績予想について

この説明資料内で述べられているヤマハ発動機株式会社の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。

概要説明

経営総括

中期経営計画の総括

売上高・営業利益 未達成

先進国二輪車事業黒字化未達成、ROV事業建て直し。

収益性改善／財務基盤安定化

営業利益率 9%水準達成、ROE 15%水準達成、自己資本比率 45%超。

成長戦略(技術開発)の成果

各領域で新たな提供価値を創出、3年間で235モデル投入。

2019年の展望

売上高・営業利益

不透明な外部環境に鑑み為替リスクを最大限見積もった下限ライン。

財務戦略

キャッシュ・フローを改善させ、成長投資と株主還元積極的に配分。

経営業績：2018年

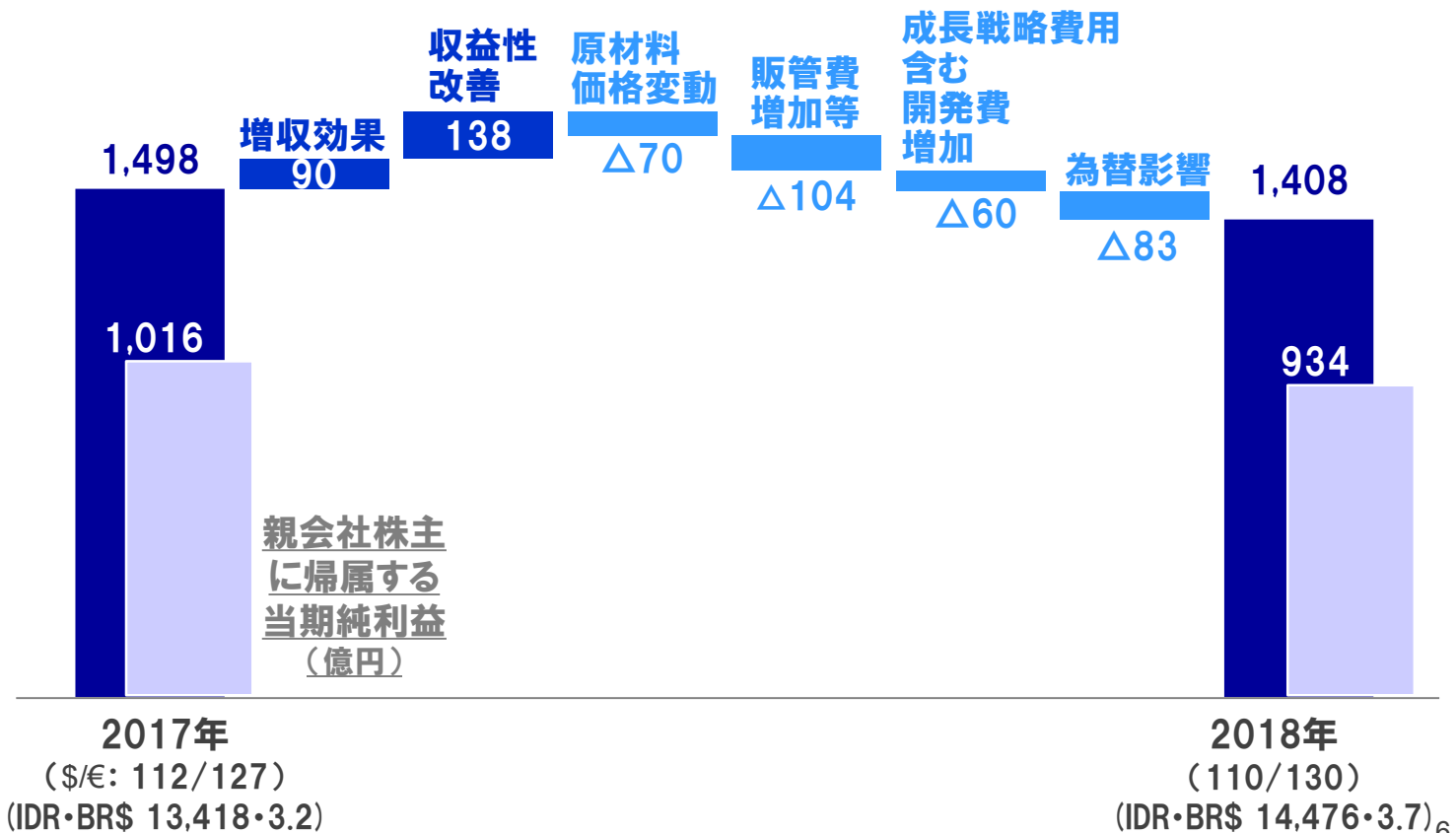
先進国二輪車の販売減、為替影響、原材料高騰により減益。

(億円)	2017年実績	2018年実績	前年比
売上高	16,701	16,731	100%
営業利益	1,498	1,408	94%
営業利益率	9.0%	8.4%	△0.6pts.
経常利益	1,548	1,380	89%
当期純利益 [※]	1,016	934	92%
(\$・€)	112・127	110・130	—
(\$/IDR・BR\$)	13,418・3.2	14,476・3.7	—

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

経営業績：営業利益変動要因

(億円)



経営業績：2019年（年間予想）

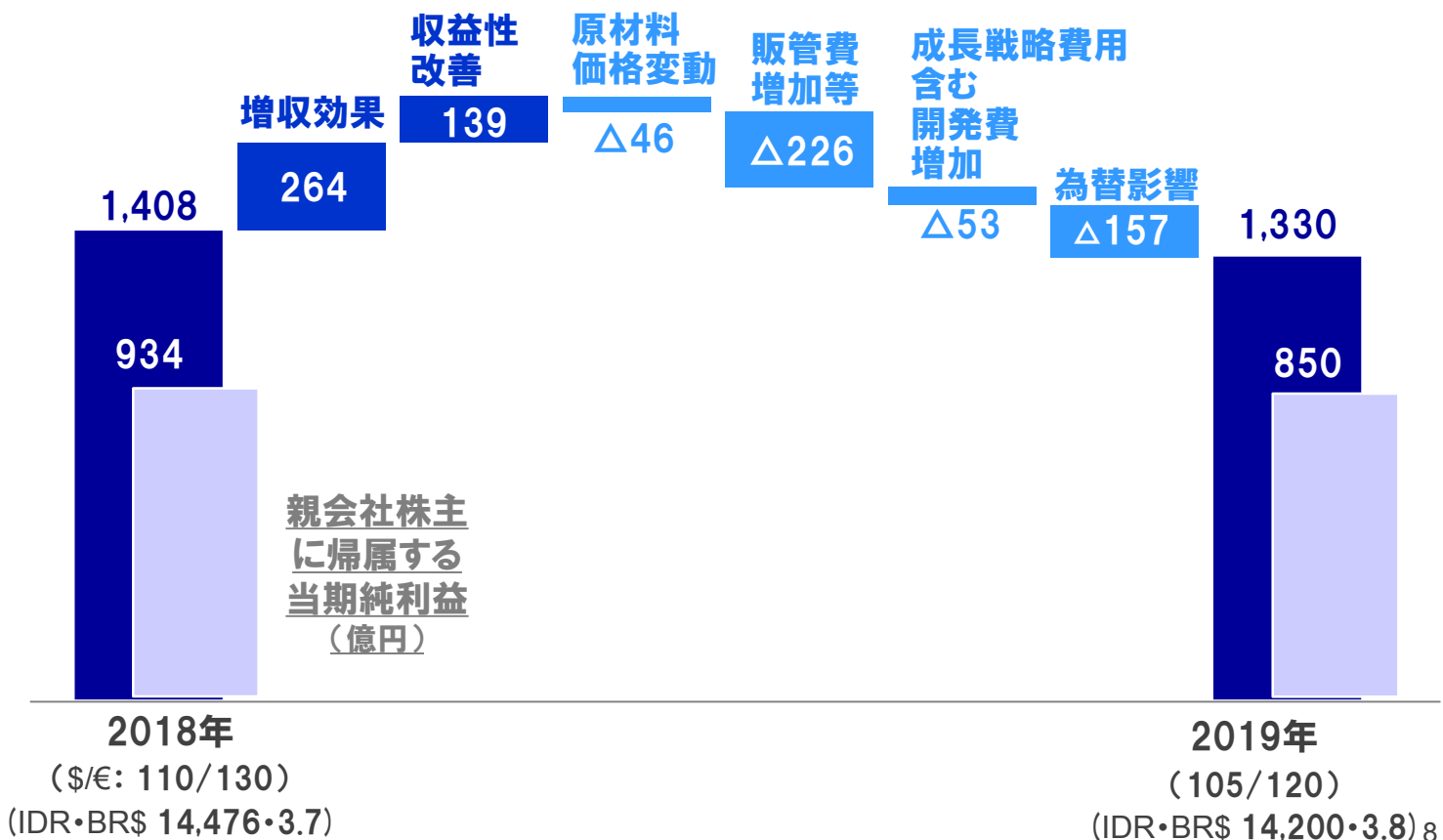
為替影響がある中で、安定的に利益を創出する。

（億円）	2018年実績	2019年予想	前年比
売上高	16,731	17,000	102%
営業利益	1,408	1,330	94%
営業利益率	8.4%	7.8%	△0.6pts.
経常利益	1,380	1,350	98%
当期純利益 [※]	934	850	91%
（\$・€）	110・130	105・120	—
（\$/IDR・BR\$）	14,476・3.7	14,200・3.8	—

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

経営業績：営業利益変動要因（年間予想）

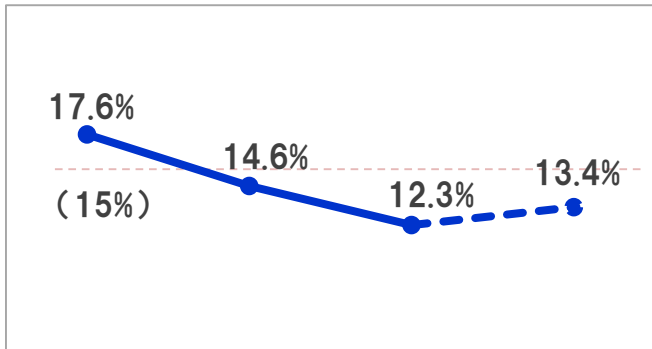
（億円）



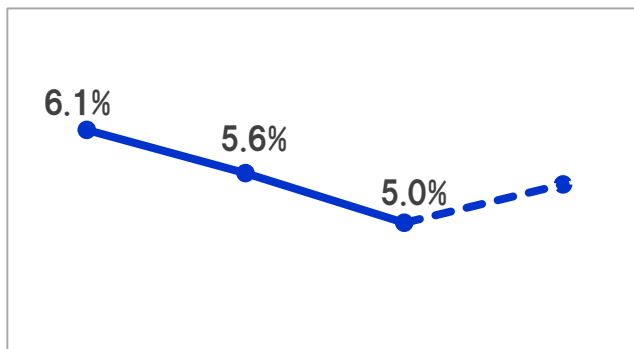
主要財務指標

成長に向けた開発に費用を投じ、将来での刈り取りを目指す。

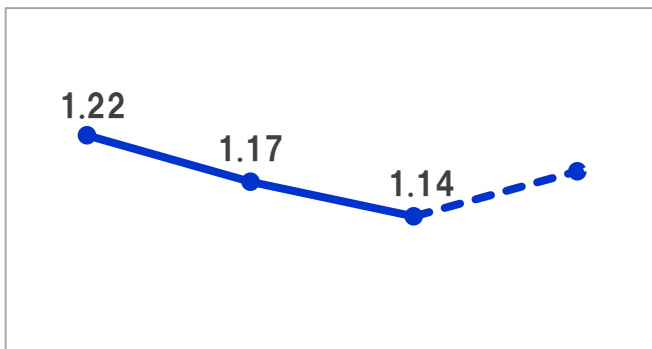
ROE



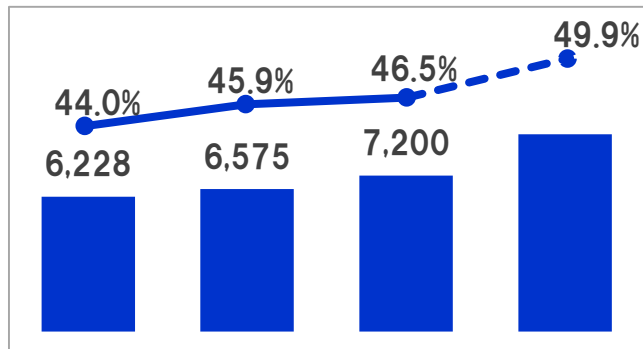
当期利益率



総資産回転率



自己資本(億円)・自己資本比率



2017年 2018年 2019年 2021年

2017年 2018年 2019年 2021年

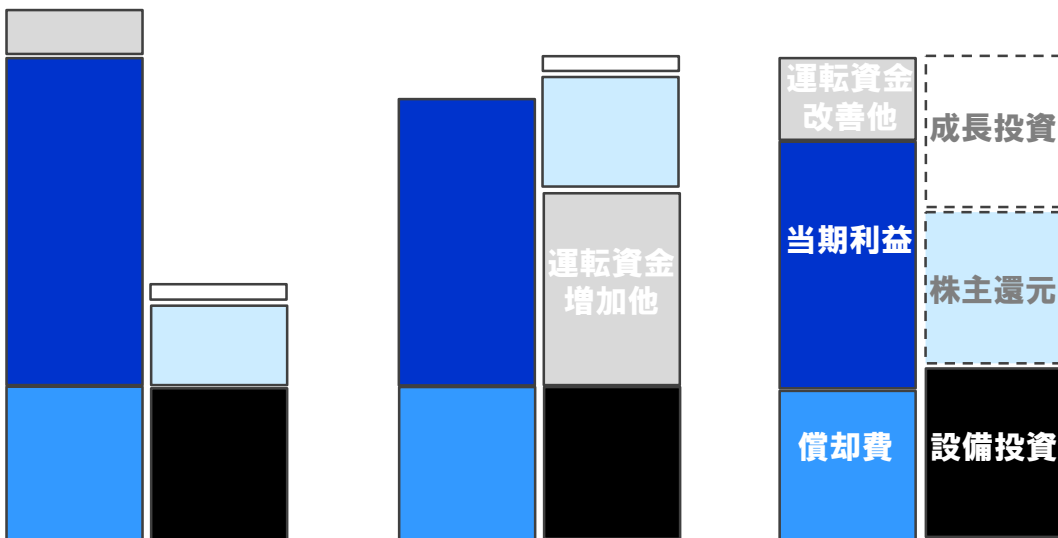
キャッシュ・フロー(販売金融除く)

株主還元充実、成長投資を本格化へ。

(億円)

+736

△96



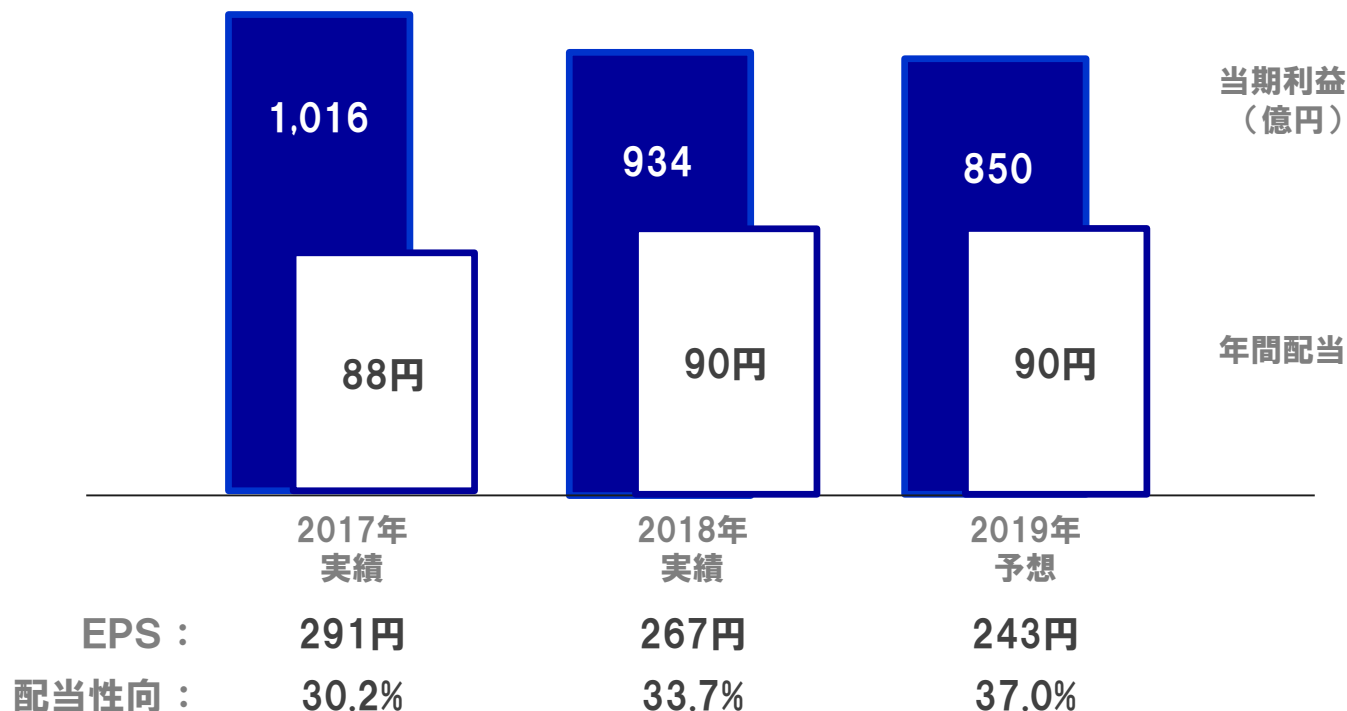
2017年
実績

2018年
実績

2019年
予想

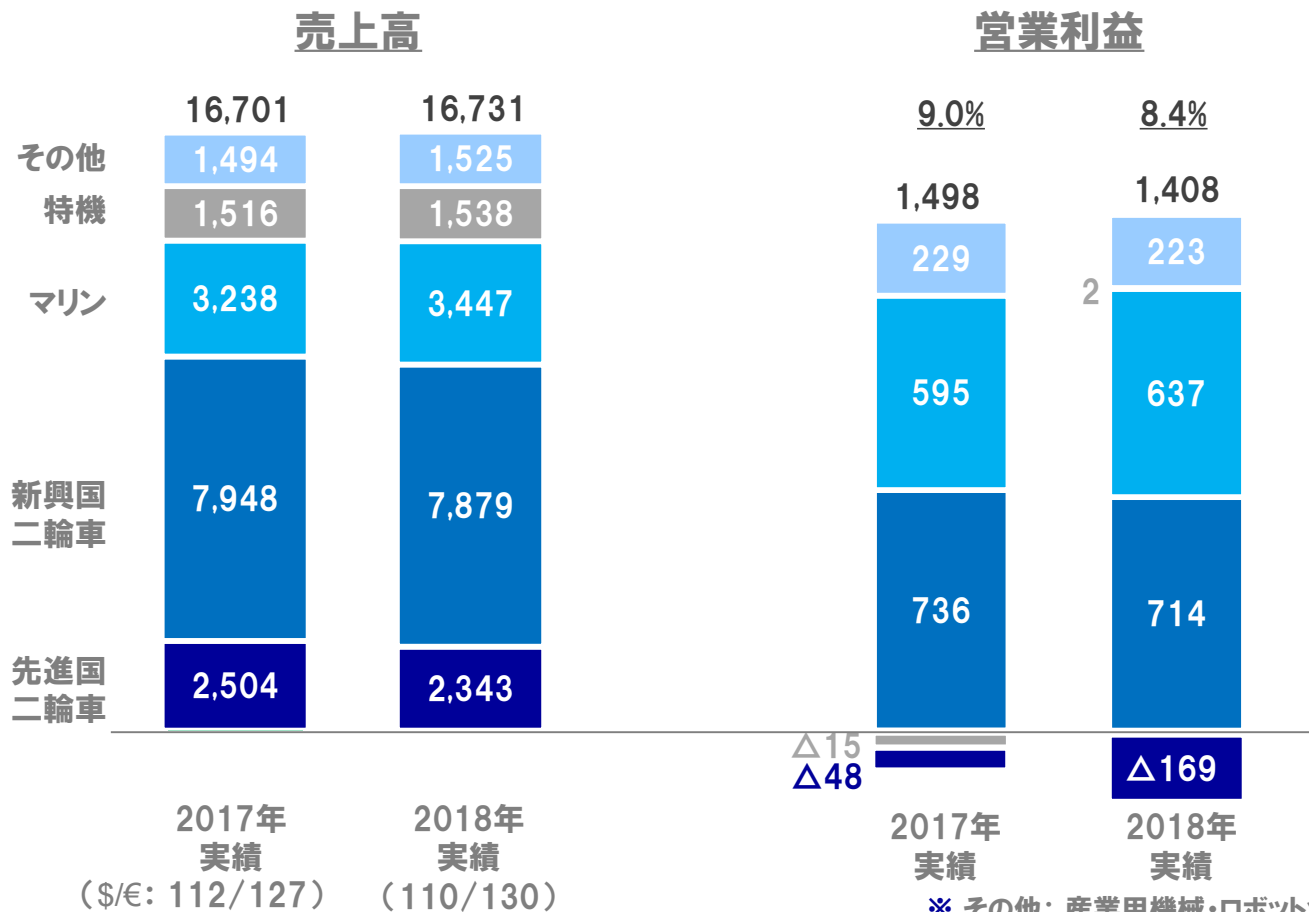
株主還元

2019年も90円配当を継続。



事業別説明

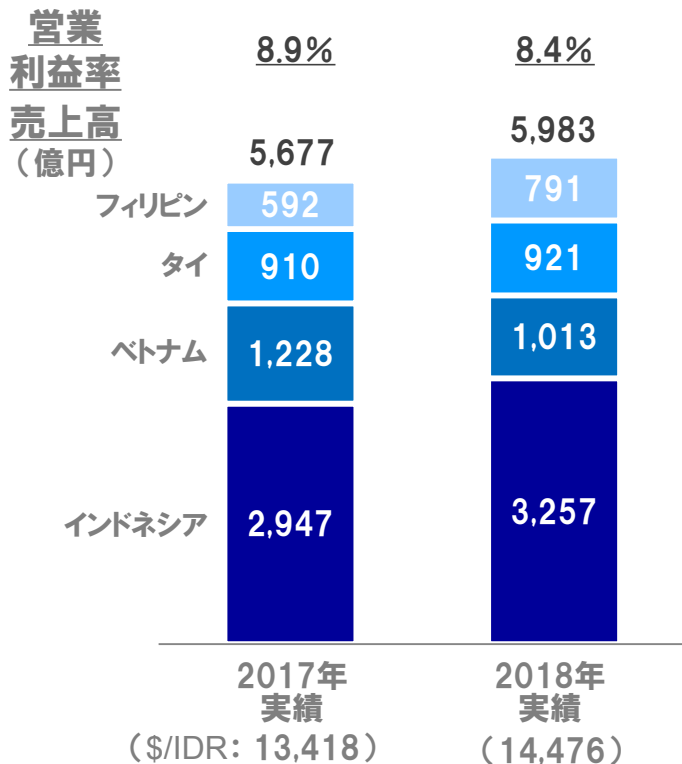
経営業績：事業別 売上高・営業利益(実績)



二輪車事業

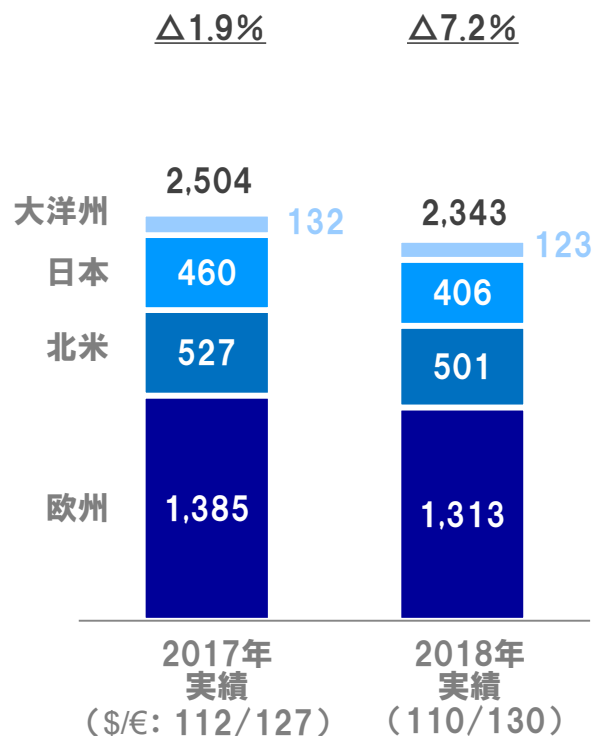
アセアン

フィリピン・インドネシアでの販売増えるが、ベトナムでの販売減で減益。



先進国

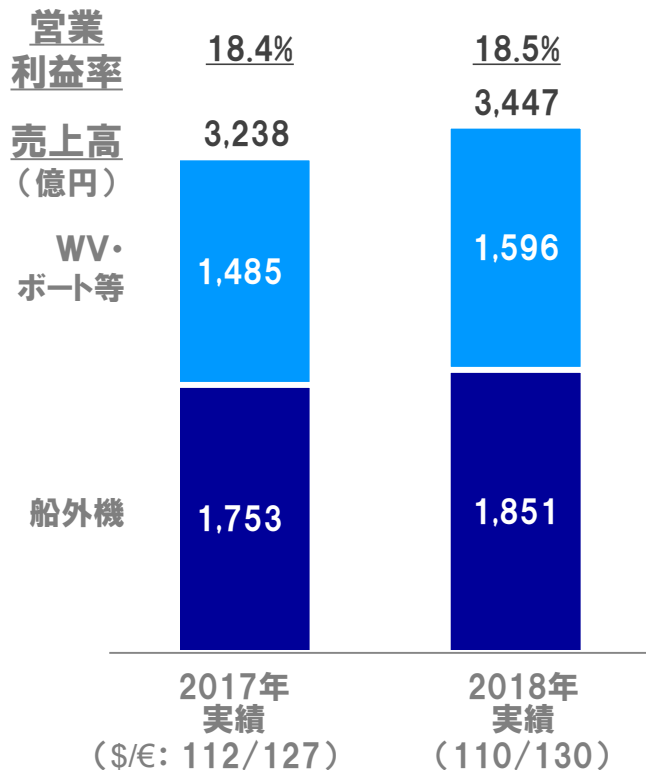
欧州販売減により、営業利益率は大幅に低下。



マリン事業、産業用機械・ロボット事業

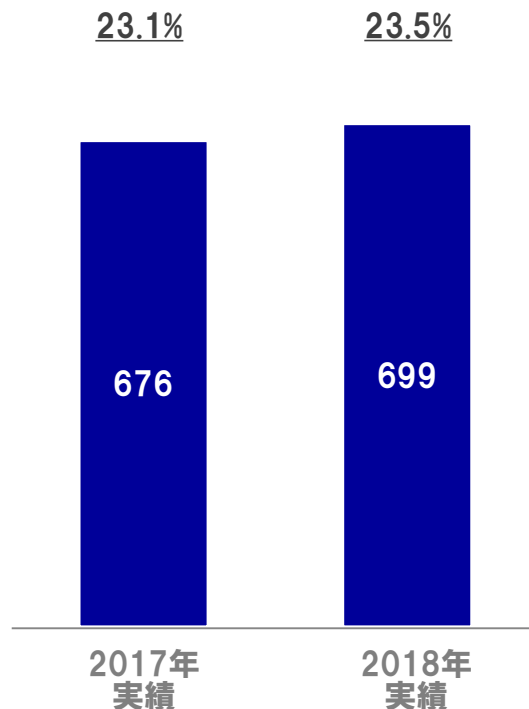
マリン

船外機、ウォータービークル、ボート等の販売増加。



産業用機械・ロボット

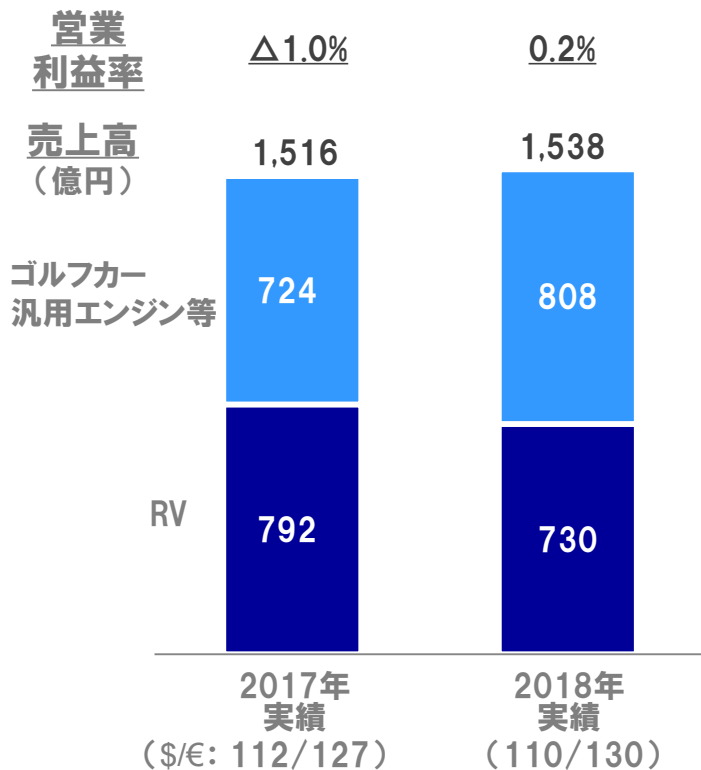
サーフェスマウンターの商品ミックス改善。



特機事業、その他の事業

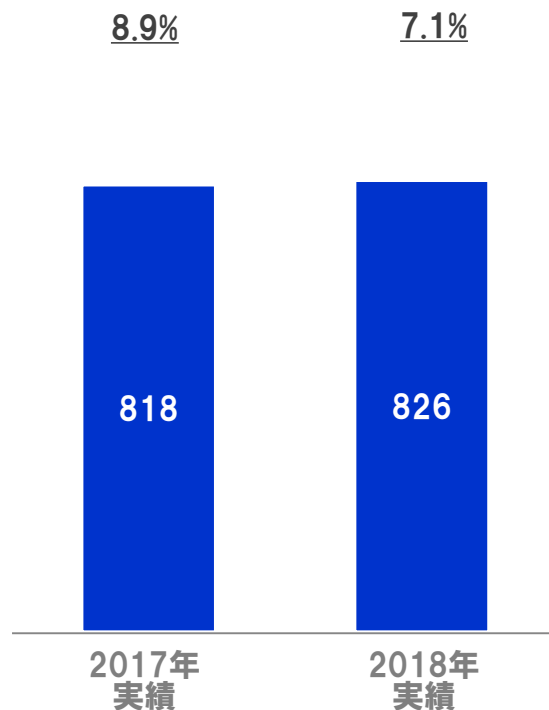
特機

ゴルフカー・汎用エンジン
販売増加。



その他

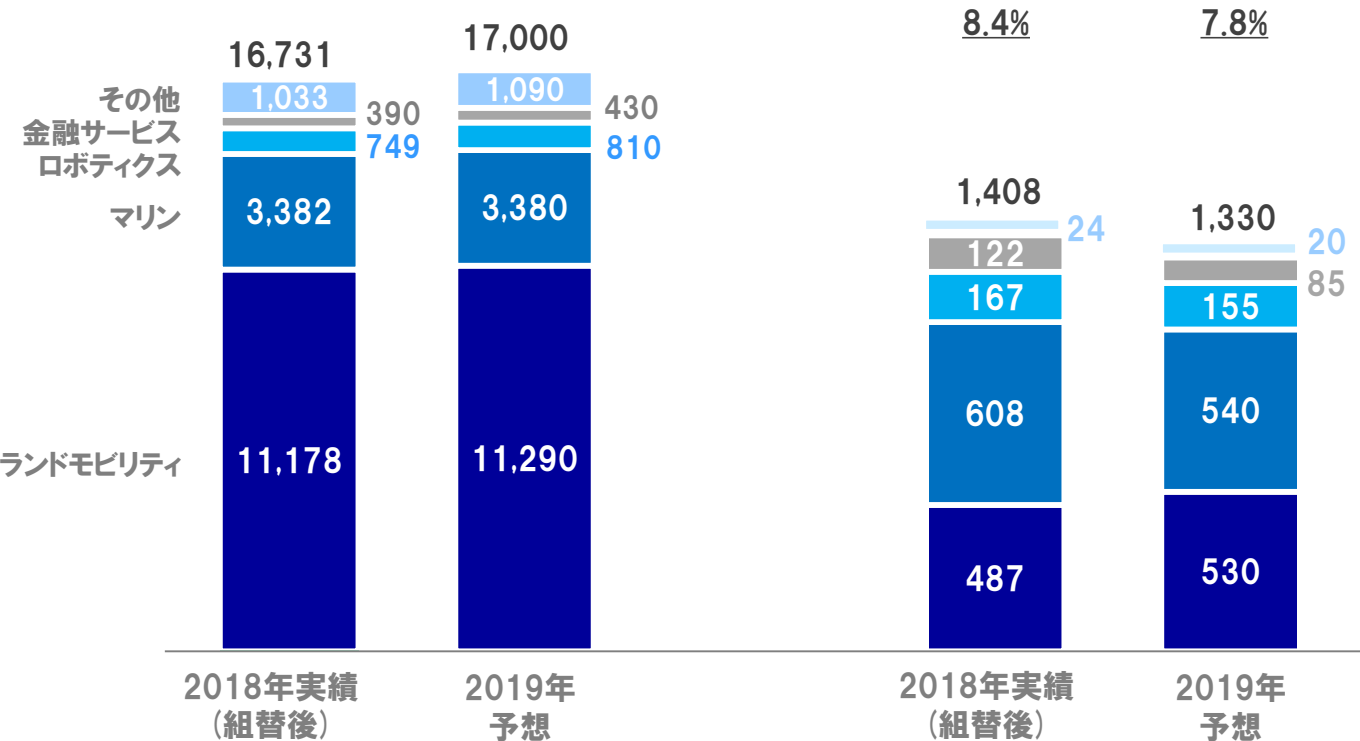
電動アシスト自転車の
商品ミックス悪化。



経営業績：事業別 売上高・営業利益(予想)

売上高

営業利益



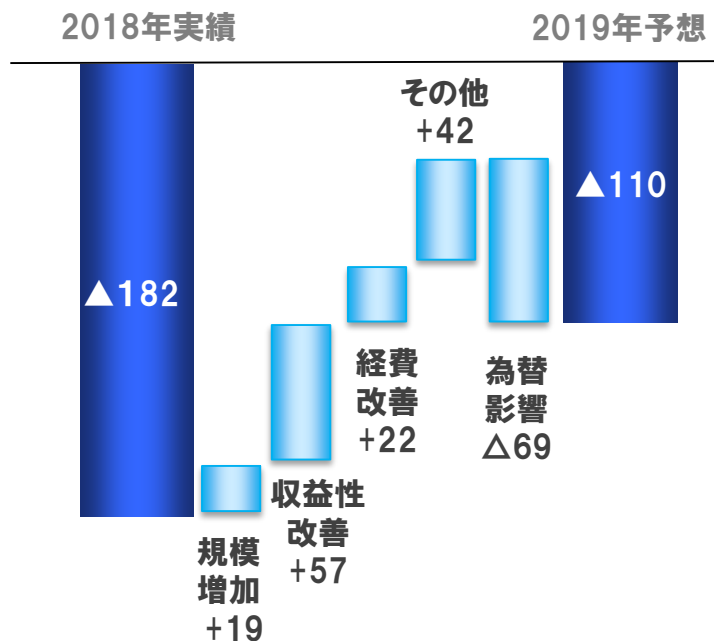
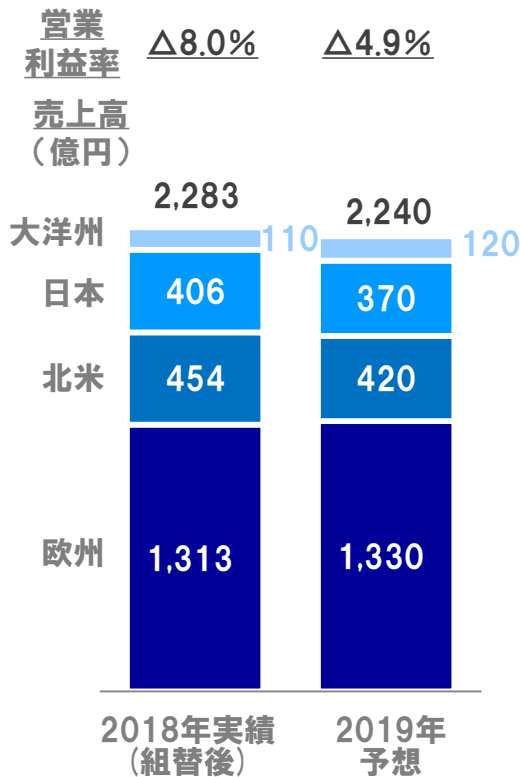
(\$/€: 110/130)

(105/120)

※ 2018年実績(組替後)は参考数値です。
新旧セグメント対応表はp22をご覧ください。

製造・販売機能の構造改革を進め、事業改善に注力する。

営業利益変動要因



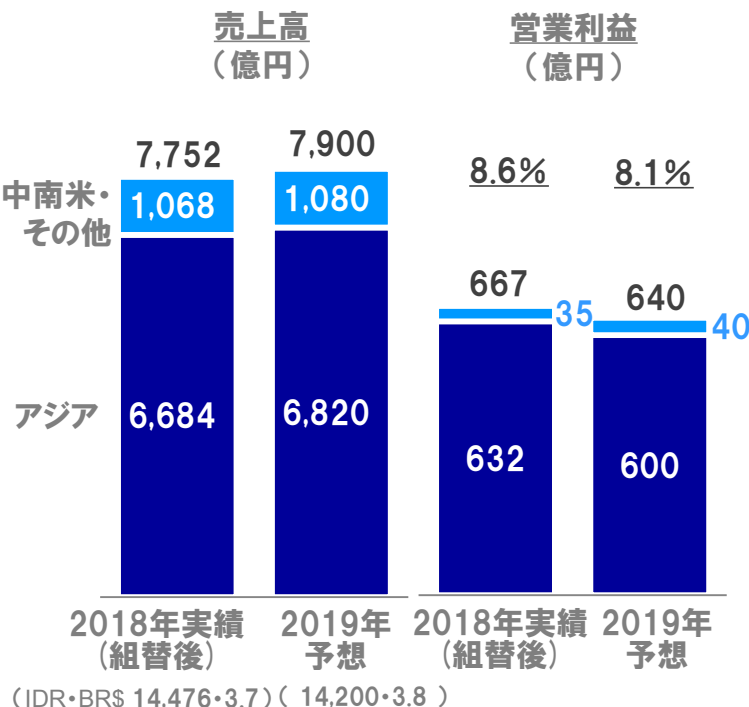
(\$/€: 110/130) (105/120)

※ 2018年実績 (組替後) は参考数値です。

新興国二輪車、RV

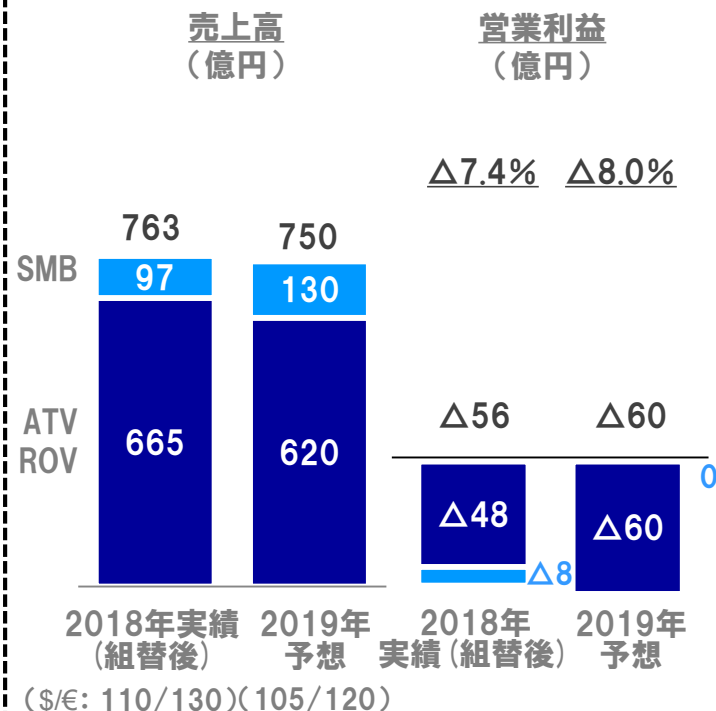
新興国二輪車

為替影響を受ける中、新中間層向け高価格帯二輪車の増販をめざす。



RV

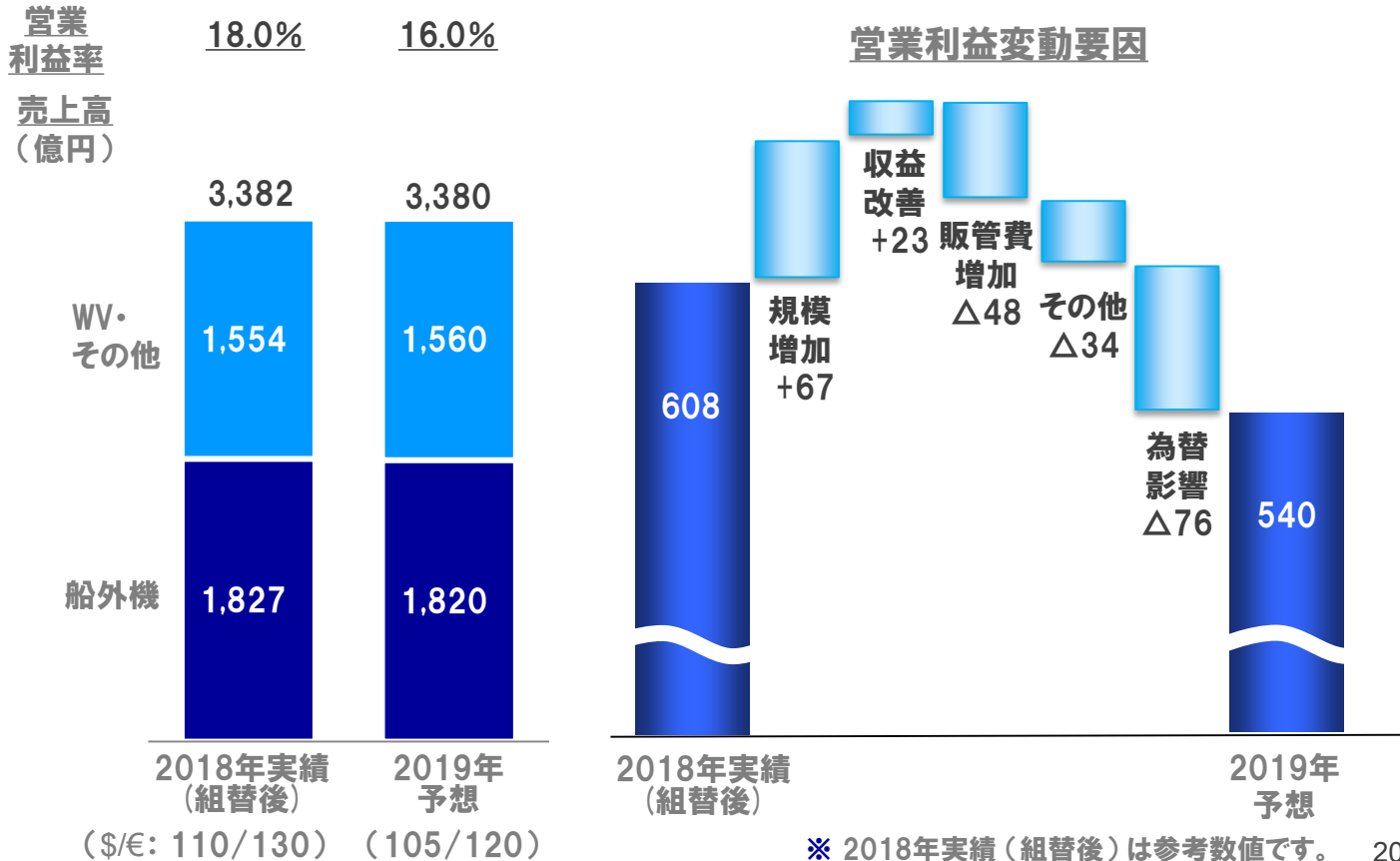
新PFモデルの開発を進める。



※ 2018年実績 (組替後) は参考数値です。

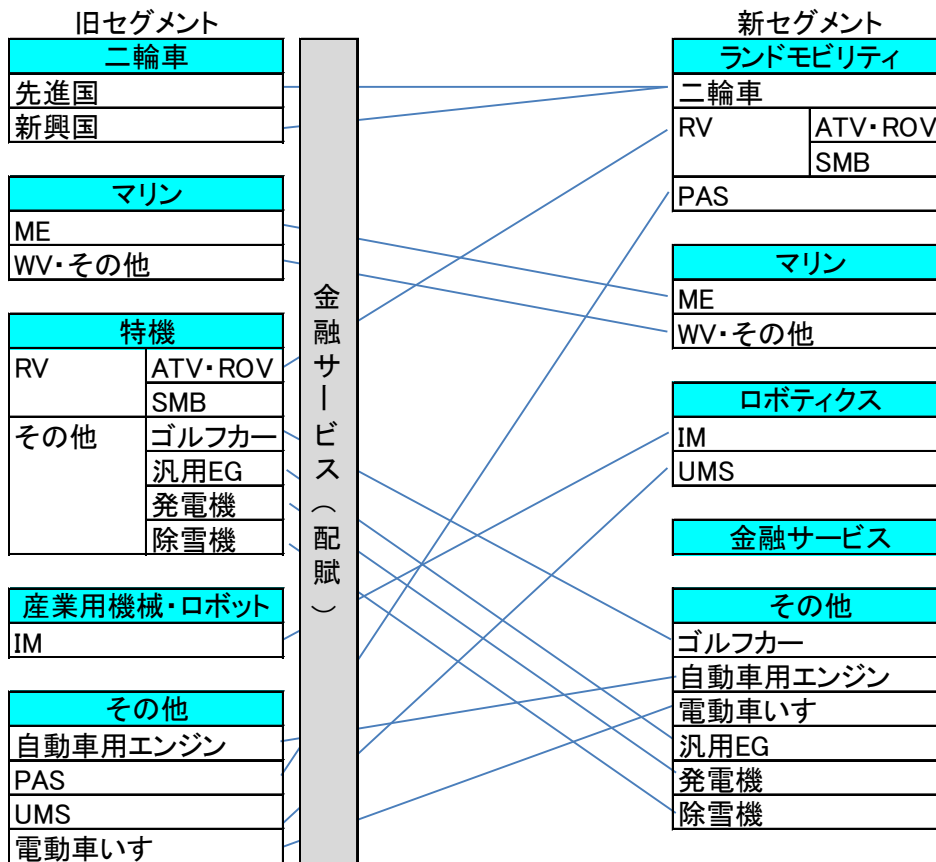
マリン事業

為替影響を受けるが、大型船外機の増産効果顕在化。





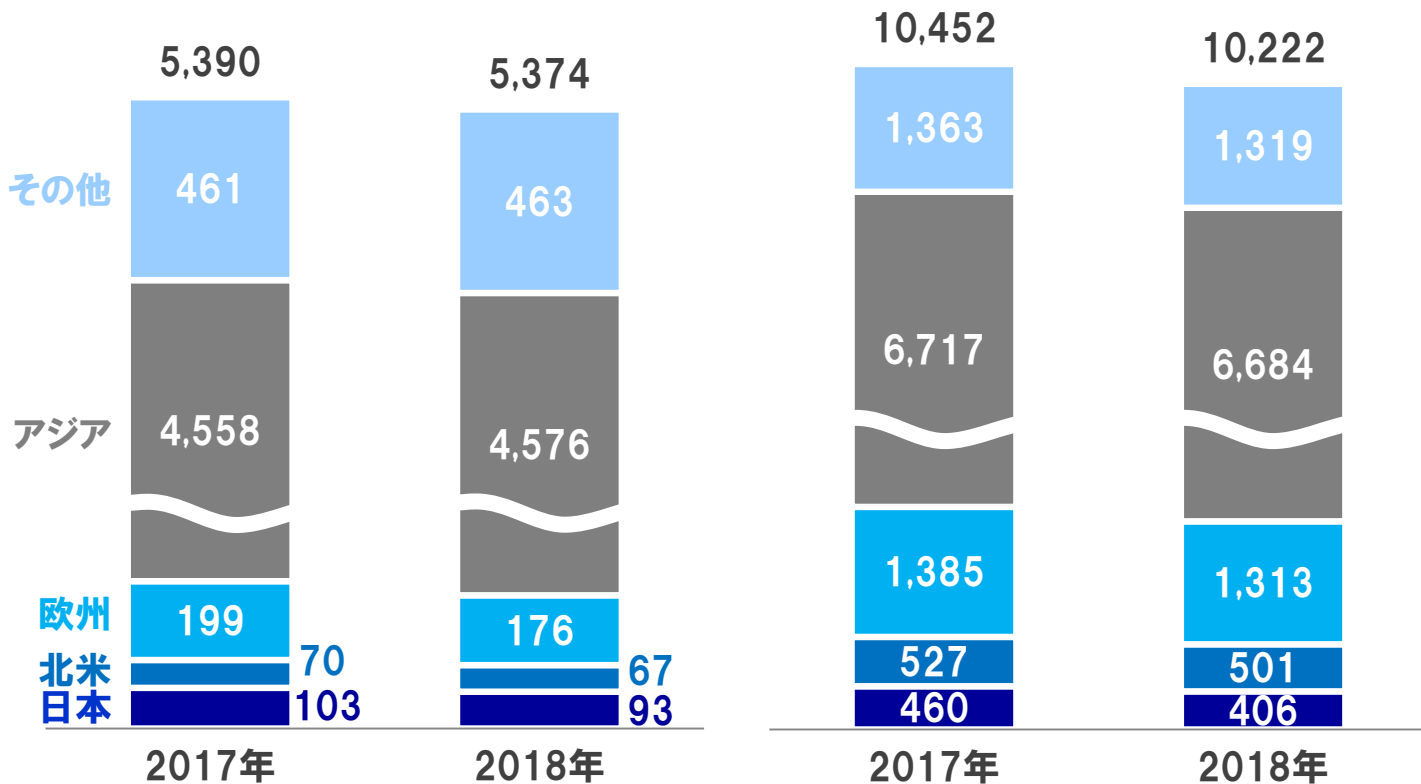
参考:新旧セグメント 比較



二輪車 販売台数・売上高（年間）

出荷台数
(千台)

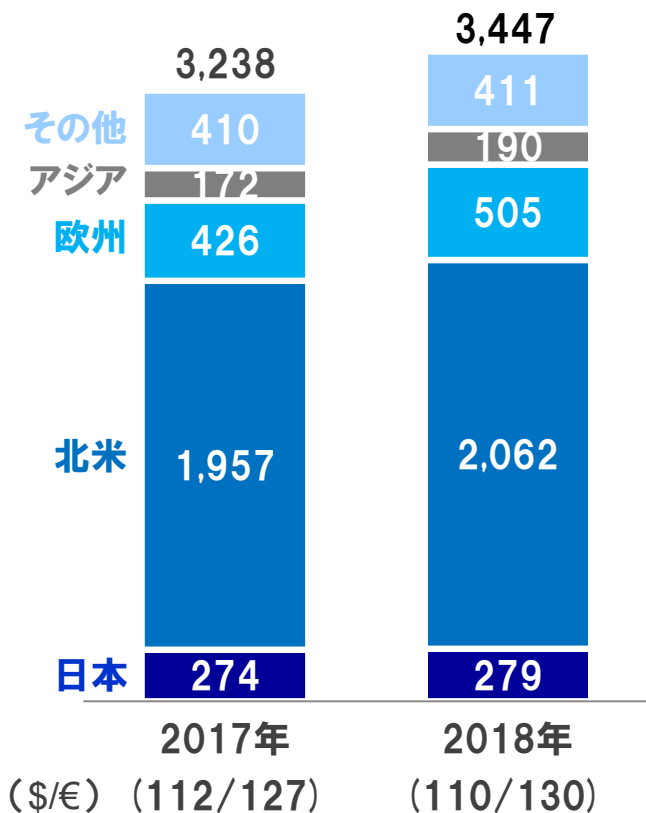
売上高
(億円)



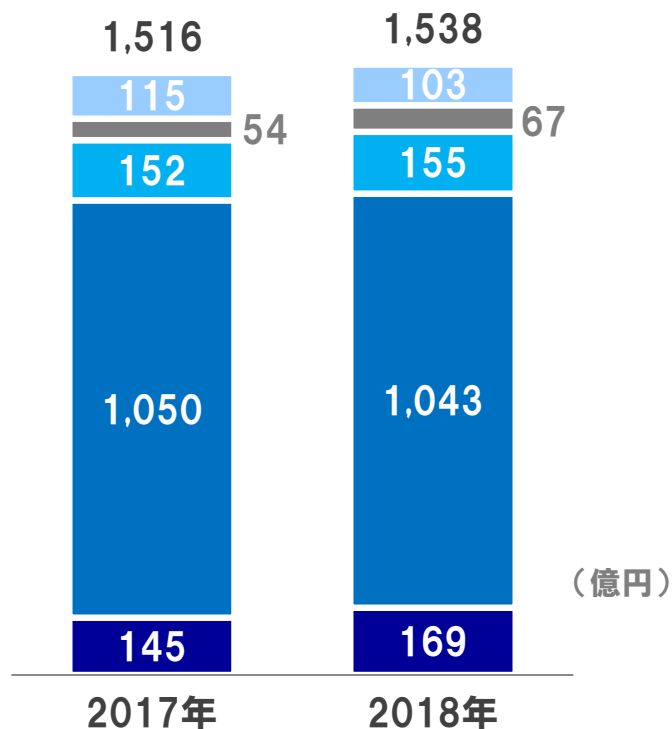
(\$/€) (112/127) (110/130)

マリン・特機 売上高（年間）

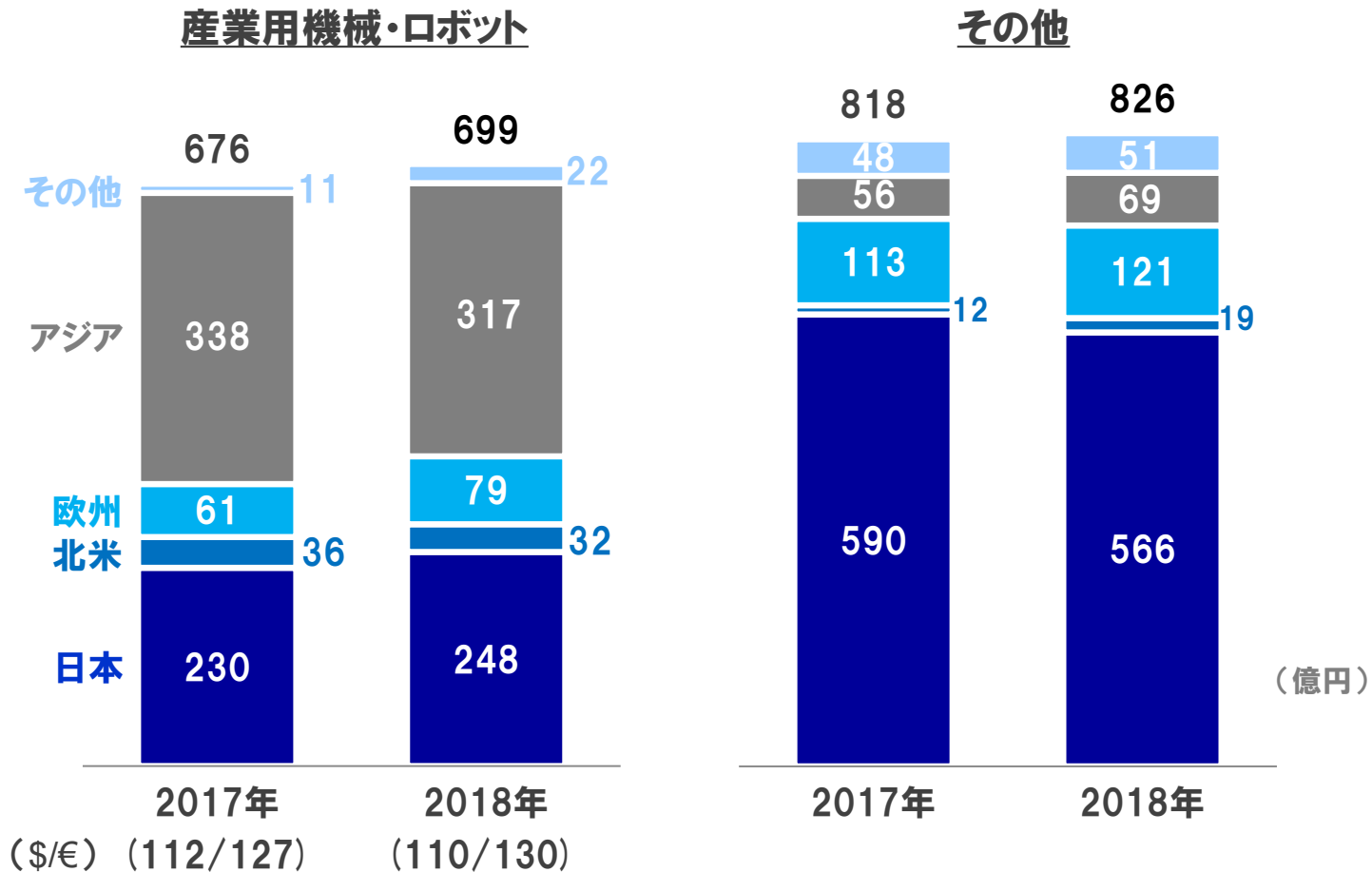
マリン



特機



産業用機械・ロボット その他 売上高（年間）



設備投資・減価償却費・研究開発費・有利子負債

(億円)

	17年	18年
設備投資	565	551
減価償却費	455	464
研究開発費	992	1,028
有利子負債	3,535	3,567
(うち販売金融分)	2,487	2,628

為替影響（対前年）

（億円）	18年実績（年間）				19年予想（年間）			
	US\$	EURO	その他	合計	US\$	EURO	その他	合計
本社の輸出入にかかる為替影響	△26	29	△17	△14	△77	△64	0	△141
為替による仕入影響（海外子会社）	0	0	△27	△27	0	0	30	30
粗利益の換算影響（海外子会社）	△12	15	△109	△106	△40	△39	△72	△150
販管費の換算影響（海外子会社）	8	△9	66	65	30	28	46	104
営業利益への為替影響	△29	34	△88	△83	△86	△75	4	△157

為替感応度

1円の変動が営業利益

に与える影響額

US\$ EURO
17億円 7億円

US\$ EURO
15億円 6億円



YAMAHA

Revs Your Heart